

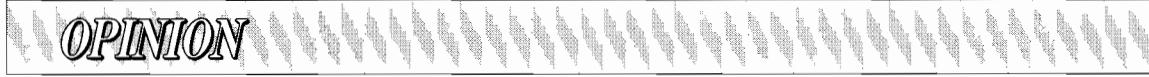
お 詫 び

編集委員会の手違いにより日本生理学雑誌62巻3号の<OPINION>「JJPに掲載された論文はどの程度引用されているか：菅弘之 JJP 編集委員長記」の一部が欠落してしまいました。

菅先生を始め会員の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

ここに改めて全文を掲載させていただきます。

日本生理学会事務局



OPINION

JJP に掲載された論文はどの程度引用されているか

JJP 編集委員長 菅 弘 之

日本生理学会の英文機関誌である Japanese Journal of Physiology (JJP) 50巻1号の巻頭言でも述べたように、JJP は今年西暦2000年で丁度創刊50周年を迎えた。3年間の編集委員とそれに引き続く3年間の委員長の経験から顧みて、先人の大変なご努力によってここ迄来たのだろうと感無量である。

有り難いことに JJP のインパクトファクター (1998年調べ) も1.3にまで増加してきており、日本生理学会員のみならず、内外の生理学関係研究者の関心も増加しつつあるように感じられる。また、JJP掲載論文全体の被引用頻度の半減期をあらわす Cited half-life も10年近くと比較的長い。これら両インデックスは JJP 全体を特徴付けるものであって、毎年更新される ISI 社の Journal Citation Report の CD 版で容易に調べられる。しかし両インデックスに具体的にどの論文が多く貢献しているかの調査は、予算と手段の制約ゆえに調べたことがなかった。

そこでこの機会に、JJP掲載論文の中でどれが最も頻回にその後の論文に引用されているかを ISI Japan 社のご厚意で調査してみた(謝辞参照)。その結果を被引用回数90回以上の論文に限って降順に示

すと以下の通りであった。最初の括弧内の数字が掲載後1999年秋迄の被引用回数である。最高が161回である。現時点(2000年2月)では、もう少々被引用回数が増していく、若干順位が変わっているかも知れない。

著者名を眺めると、すでに退職された先人から目下活躍中の現役迄幅が広い。また、最も古いのは第5巻、1955年(従って掲載後45年が経過)、最も新しいのは第34巻、1984年(従って掲載後16年が経過)であり、これも幅広い。被引用回数順位と巻、掲載年とは必ずしも相関が無い(相関係数0.18)。このことは、内容さえ良ければ新しい論文でも被引用回数が短期間に増加することを意味しており、既掲載論文の被引用回数の増加を大いに期待したい。また今後長期に渡って引用され続ける様な立派な内容の論文が投稿されてくるのを期待したい。

現在では、さらに調べようと思えば、ISI 社の最新のデータベース検索ソフトである Web of Science(国内数大学では納入済み)を用いて、それぞれを引用している論文や、自己引用の割合なども調べられるが、私の手許からは未だアクセス出来ないのと、有料で依頼するには予算が必要となるのでして

いない。

- (161) Masanori Otsuka, Makoto Endo, and Yoshiaki Nonomura : Presynaptic nature of neuromuscular depression. 12 : 573-584, 1962.
- (160) Junichi Taniguchi, Shinichiro Kokubun, Akinori Noma, and Hiroshi Irisawa : Spontaneously active cells isolated from the sino-atrial and atrio-ventricular nodes of the rabbit heart. 31 : 547-558, 1981.
- (148) Hikaru Suzuki, Kyoko Morita, and Hiroshi Kuriyama : Innervation and properties of the smooth muscle of the dog trachea. 26 : 303-320, 1976.
- (134) Masao Ito : The electrical activity of spinal ganglion cells investigated with intracellular microelectrodes. 7 : 297-323, 1957.
- (120) Taro Furukawa, Tadao Sasaoka, and Yuji Hosoya : Effects of tetrodotoxin on the neuromuscular junction. 9 : 143-152, 1959.
- (120) Akira Takeuchi : The long-lasting depression in neuromuscular transmission of frog. 8 : 102-113, 1958.
- (119) Jurgen Aschoff, Ursula Gerecke, and Rutger Wever : Desynchronization of human circadian rhythms. 17 : 450-457, 1967.
- (118) Kaoru Yanagihara, Akinori Noma, and Hiroshi Irisawa : Reconstruction of sino-atrial node pacemaker potential based on the voltage clamp experiments. 30 : 841-857, 1980.
- (116) Taro Furukawa, and Isano Hanawa : Effects of some common cations on electroretinogram of the toad. 5 : 289-300, 1955.
- (115) Masao Ito, Toshinori Hongo, Mitsuo Yoshida,

- Yasuhiro Okada and Kunihiko Obata : Antidromic and trans-synaptic activation of Deiters' neurones induced from the spinal cord. 14 : 638-658, 1964.
- (115) Hisatoshi Sakakura : Spontaneous and evoked unitary activities of cat lateral geniculate neurons in sleep and wakefulness. 18 : 23-42, 1968.
- (109) Mamoru Fujimoto, and Takahiro Kubota : Physicochemical properties of a liquid ion exchanger microelectrode and its application to biological fluids. 26 : 631-650, 1976.
- (105) Juro Iriuchijima, and Mamoru Kumada : Activity of single vagal fibers efferent to the heart. 14 : 479-487, 1964.
- (101) Hisao Suzuki, and Norio Taira : Effect of reticular stimulation upon synaptic transmission in cat's lateral geniculate body. 11 : 641-655, 1961.
- (101) Masaki Kameyama, Tatsuto Kiyosue, and Michimasa Soejima : Single channel analysis of the inward rectifier K current in the rabbit ventricular cells. 33 : 1039-1056, 1983.
- (92) Motohiko Murakami, Yukio Shimoda, Kei Nakatani, Ei-ichi Miyachi, and Shu-ichi Watanabe : GABA-mediated negative feedback from horizontal cells to cones in carp retina. 32 : 911-926, 1982.
- (91) Akinori Noma, Toshio Nakayama, Yoshihisa Kurachi, and Hiroshi Irisawa : Resting K conductances in pacemaker and non-pacemaker heart cells of the rabbit. 34 : 245-254, 1984.

謝辞：ISI Japan 社の棚橋佳子氏に Web of Science を用いて調査していただいた。調査結果の提供に感謝します。